

# 教養教育 全学テーマ別自己評価書「平成12年度着手継続分」

## I 対象機関の概要 [kyouyou1.pdf](#)

- 1 機関名
- 2 所在地
- 3 学部・研究科構成
- 4 学生総数及び教員総数
- 5 特徴
  - 5.1 本学の沿革
  - 5.2 教育・研究における本学の特徴

## II 教養教育に関するとらえ方 [kyouyou1.pdf](#)

- 1 大学全体としての教養教育のとらえ方
- 2 学部教育全体の中での教養教育の位置付け
- 3 教養教育と専門教育の関連性

## III 教養教育に関する目的及び目標 [kyouyou2.pdf](#)

- 1 目的
- 2 目標

## IV 評価項目ごとの自己評価結果

### [1 実施体制](#)

#### (1) 要素ごとの評価

##### (要素1) 教養教育の実施組織に関する状況

###### 観点ごとの評価結果

観点A：教育課程を編成するための組織

観点B：教養教育を担当する教員体制

観点C：教養教育の実施を補助，支援する体制

観点D：教養教育を検討するための組織

観点E：教養教育を円滑に進めるための助言指導体制

観点F：留学生に対する助言指導及び支援体制

###### 要素1の貢献の程度

##### (要素2) 目的及び目標の周知・公表に関する状況

###### 観点ごとの評価

観点G：目的及び目標の趣旨の教職員，学生等における周知

観点H：目的及び目標の趣旨の学外者への公表

###### 要素2の貢献の程度

##### (要素3) 教養教育の改善のための取組状況

###### 観点ごとの評価

観点I：学生による授業評価

観点J：ファカルティ・ディベロップメント  
観点K：取組状況や問題点を把握するシステム  
観点L：問題点を改善に結びつけるシステム  
要素3の貢献の程度

(2) 実施体制の水準

(3) 得に優れた点及び改善点等  
特に優れた点

## 2 教育課程の編成

(1) 要素ごとの評価

(要素1) 教育課程の編成に関する状況

観点ごとの評価結果

観点A：教育課程の編成の内容的な体系性

観点B：教育課程の編成の実施形態（年次配当等）の体系性

観点C：教養教育と専門教育の関係

観点D：他大学との連携

要素1の貢献の程度

(要素2) 授業科目の内容に関する状況

観点ごとの評価結果

観点E：授業科目と教育課程の一貫性

観点F：授業科目選択の自由度

要素2の貢献の程度

(2) 教育課程の編成の水準

(3) 特に優れた点及び改善点等  
特色ある取組  
改善点

## 3 教育方法

(1) 要素ごとの評価

(要素1) 授業形態及び学習指導法等に関する取組状況

観点ごとの評価結果

観点A：授業形態（講義，演習など）

観点B：学力に即した対応

観点C：学習指導法

観点D：シラバスの内容と指導法

要素1の貢献の程度

(要素2) 学習環境（施設・設備等）に関する取組状況

観点ごとの評価結果

観点E：授業に必要な施設・設備

観点F：自主学習のための施設・設備

観点G：学習に必要な図書，資料

観点H：IT学習環境

要素2の貢献の程度

(要素3) 成績評価法に関する取組状況

観点ごとの評価結果

観点I：成績評価の一貫性

観点J：成績評価の厳密性

要素3の貢献の程度

(2) 教育方法の水準

( 3 ) 特に優れた点及び改善点等

#### 4 教育の効果

( 1 ) 要素ごとの評価

( 要素 1 ) 履修状況や学生による授業評価結果から判断した教育の実績や効果の状況

観点ごとの評価結果

観点 A : 学生の履修状況

観点 B : 学生による授業評価結果

要素 1 の実績や効果の程度

( 要素 2 ) 専門教育履修段階や卒業後の状況等から判断した教育の実績や効果の状況

観点ごとの評価結果

観点 C : 専門教育実施担当教員の判断

観点 D : 専門教育履修段階の学生の判断

観点 E : 卒業生の判断

要素 2 の実績や効果の程度

( 2 ) 教育効果の水準

( 3 ) 特に優れた点及び改善点等

特色ある取組, 特に優れた点

改善を要する点, 問題点

V 特記事項 [kyouyou7.pdf](#)